

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

討議年月日:平成 31年 3月 16日

公表:平成 31年 3月 20日

事業所名 風の子びれっじ 希生歩

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5		複数の部屋をうまく組み合わせてサービス提供している。	多機能事業所のため、サービス提供時間帯が重なる際は、部屋を分けて活動するようにしている。
	2	職員の配置数は適切である	2	3	適切に配置している。	既定上は充足しているものの屋外活動等では不安を感じる部分がある。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	4	利用者さんによってはスタッフがマンツーマンでサポートしている。	室内は問題ないが玄関前は階段が多い。室内にも手すりがあると良い。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5		毎日の目標設定で同じ目標を持って支援にあたっている。	PDCAのCおよびAIについても少し話し合いの必要性を感じる。日々のPDCAはラインで全社員と共有している。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5		保護者向け評価表を集計した後に、事業所スタッフで改善点を話し合っている。	毎年2月に実施。更なる改善を目指していく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5		昨年よりホームページ上で公開している。	ホームページ上で公開しているが、保護者様に認知してもらえるように、活動報告メール等でも周知していく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		5		当事業所を客観的に評価してもらえるよう検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5		各種研修や階層別研修等を随時実施している。	研修の内容を全体に共有できると良い。引き続きスマホ・PCを使いeラーニングを月1回実施し都度レポートを提出していく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5		新規契約時にアセスメントをとり利用者さんの特性・課題などについて伺っている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	1	風の子スタンダードを	太田ステージ等上手く活用できていない部分があるため、課題の見直し、作り変え、取り組みやすい仕組みを考えていく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	5		楽しめる活動、就労や社会性のスキルアップを念頭にプログラムを提案している	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5		毎日の目標設定で小さくても変化があるので目標があると良いと感じている。	定期的な見直しや利用者の状況に応じてプログラム内容の変更を行っている
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	2	3	個々のステージに合った自立課題を行っている。	自立課題のやり方が分かりづらいものがあるため、誰が見ても分かるよう改善が必要だと感じている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	4	1	メンバーさんに応じて、個別のプログラム・方法を設定している。	より一人一人に合わせた計画を作成していく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5		サービス提供前にミーティング時間を設け、当日の利用者の個々の目標を共有、活動に活かしている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	2	支援の振り返りや反省、改善点について話し合っている	送迎後スタッフで話し合いを行っている。改善点については早急に対応していく
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3	2	日報の記入により検証、改善に繋げている。	日報を記入しているが、検証、改善までつなげられていないことがあるため、事業所会議等で話し合っていく。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5		6カ月に1度以上モニタリングを行っており、適宜保護者様とも確認を行っている。	子ども、保護者様とより具体的な支援目標やご要望の再確認・更新を進めていく。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	3	2		ガイドラインを再度共有し、チームでガイドラインに沿った支援を進めていく

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4			より詳しい利用者の様子が伝えられるよう、他スタッフの意見も持っていく
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	4	1		学校との共有があまりできていない スタッフ間で共有し適切に連絡を行っている
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている				現在該当なし
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている				中高生対象の放課後等デイサービスの為ため、該当なし
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	2	2	今年度より、引継ぎ資料の作成を進めている	より詳細に連携進めることができるよう、引き継ぎのフォーマット等を活用し連携を行っている
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	2	自立支援協議会に参加している	引き続き自立支援協議会に参加し、他機関との連携を図っていく
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	4		機会をつくっていく必要がある 風の子イベント等で過ごすことはあるが、交流はない 大きなイベント以外にも交流できる場があれば良いと思う
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	1	4	児童発達管理責任者が参加している	他スタッフも積極的に参加できるようにしていく
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5		eメールによる活動報告を利用ごとに行い、情報共有をしている	事業所やご自宅での様子をより密に共有できるようにしていく。また話しやすい雰囲気をつくるようにしていく
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	4		まずはスタッフの研修を検討していく
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	1	必要な事項は説明を行っている。	新規利用契約には説明を行っている。変更点や不明な点があれば都度お伝えしていく
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	2	3	茶話会や個別支援計画、個別に伺った内容は共有・支援につなげている	じっくりとお話できる面談の機会を設けたり、また雰囲気づくりを大切にしている
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	2		茶話会を開催しているが時期や頻度は決まっていないため、定期的に茶話会を実施できるよう検討、企画していく
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4		苦情があった場合は、迅速な対応を心がけている	苦情を受けたスタッフから管理者へ報告し、案件に応じて社内組織(虐待防止委員会等)と連携し対応を行っている
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5		四半期ごとにおたよりを発行、またブログも更新している	ブログ更新にてより希生歩の活動内容、様子を知ってもらえるよう、宣伝していく
	35	個人情報に十分注意している	4		書類はスタッフのみ入退出できるエリアで一括管理、データはPWをかけて管理している	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	3	1	利用ごとにeメールによる活動報告を毎回実施、おたよりやブログの配信をしている	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	1	全事業所での地域行事に参加している	希生歩として企画、運営する地域行事ができないか検討していく

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	2		マニュアルはあるが、把握までできていない (' 19年4月にリリース予定)
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	1	3か月に1回避難訓練を行っている	避難経路の確認は行えているが、その他の訓練は取り入れていないため、より具体的な災害を想定したり、災害用伝言ダイヤルの練習など積極的に取り入れて
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4		社内研修等で機会を設けたり、eラーニングによる受講を実施している	スタッフの虐待に対する意識をミーティングや研修等により高めていく
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している				身体拘束の実例なし
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		3		現状、医師の指示書はないもののアレルギーについてはスタッフ間連携している
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4		ヒヤリハットがあった際は、事業所内で共有している	少しでもヒヤリハットだと感じたら、すぐに記録に残す意識を定着させていく